RITSUMEIKAN

人類の課題に新たな〈知〉をもって挑む

Graduate School of Core Ethics and Frontier Sciences

「核心としての倫理」（Core Ethics）を軸に、公共、生命、共生、表象の四つのテーマのもと、新しい研究領域を創出します。

立命館大学大学院　先端総合学術研究科（2027 年度）

http://www.r-gscefs.jp/

先端総合学術研究科の教育理念

先端総合学術研究科先端総合学術専攻は、現代の諸科学分野に共有された主題群を「プロジェクト研究」によって追求することを通じて、新たな研究領域の創出を担う先端的で総合的な知の探求者、制作者としての研究者を養成することを目的としています。

本研究科は、先端的なテーマを総合的に研究し、研究者を養成するために、2003 年 4 月に一貫制博士課程の独立研究科として開設されました。本研究科では「21 世紀における公共性」（以下「公共」）、「争点としての生命」（以下「生命」）、「共生の可能性と限界」（以下「共生」）、「表象文化における伝統と技術」（以下「表象」）の 4 テーマ領域を設定し、「善き生のための再構築」を目指してきました。これらのテーマ領域の設定は、各領域の規定に共通する問いの源泉として「核心としての倫理（CoreEthics）」を置くかたちで、研究科全体の教育目的そこに収斂させるような工夫をカリキュラムに反映させています。

人材育成目的と先端総合学術研究科の 3 ポリシー

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

一貫制のプロジェクト型大学院
――――ディシプリンからテーマへの転換

特色

多様なプロジェクトが織りなす新しい大学院教育

立命館大学の研究所･センター群は、学生が教員とともに課題とテーマを設定し学術研究を発展させるプロジェクト研究によって多くの成果を上げてきました。先端総合学術研究科は大学院教育とプロジェクト研究を結びつけることで、ディシプリンを横断し現代社会の要請に応じられる研究者の養成を行います。

カリキュラムは、①アカデミック・リーディングを学ぶ「基礎講読科目」、② 4 つのテーマ領域の文献を読みこなす「応用講読科目」② 4 つのテーマ領域の専門知識を学ぶ「主題別科目」、③研究のアウトプット、調査方法や研究倫理を学ぶ「サポート科目」、④テーマ領域ごとの研究の実践的な発表・討議の場となる「プロジェクト科目」に分かれています。プロジェクト型の教育・研究システムでは、各教員の「個別プロジェクト」が全科目の運営に反映され、専門分野のディシプリンにそって個別具体的に学ぶのではなく、テーマを横断した知を得られることが特徴です。

それ以外に、合同研究会やフィールド調査など、教員や院生の自主的・個別的なプロジェクト形成を通じて、新たな研究の潮流を生み出すことを目標とします。また研究会は専任教員を中心に学内外の第一線の研究者たち、さらにそのときどきのゲスト参加者を交えて開催され、研究ネットワークを形成します。

院生は、1，2 回生には研究の基礎的な力を身につける勉強をしながら、こうした研究会やプロジェクトに参加します。1，2 回生に履修する「プロジェクト予備演習Ⅰ・Ⅱ」は、各テーマ領域やプロジェクトに密接に関連した専門知識を有する教員のもとで、基礎的な研究手法を身につける科目です。第 4 セメスター以降にはプロジェクト担当者である専任教員が受け持つ「プロジェクト予備演習Ⅲ」も加わり、博士予備論文に取り組みます。

博士予備論文の審査に合格すると、その院生は正式な共同研究者として、プロジェクト研究そのものの運営にあたって中核的な役割を果たすことになります。すなわち、計画的に研究を推進する日々の活動の一翼を担いつつ、研究会や学外の諸学会等における成果発表を着実に積み重ねていくことになるのです。

公共　21 世紀における公共性

身体をめぐる言説・運動・政策の変容過程を検討しつつ、断片的な生のあり方を拾いあげながら、デモクラシーと生存のための社会システムの公共性を探ります。

生命　争点としての生命

生命科学・医療・福祉をめぐる科学的知識・技術の歴史的検討、倫理的諸問題の整理を通じて、生命・生殖・病・死を総合的に探求し、新しい生命の理解と倫理の構築可能性をひらきます。

共生　共生の可能性と限界

多大な犠牲をともなう不完全な共生実験であった人間の歴史を批判的に遡りつつ、未来に向けて、そうした犠牲を伴わない生命と生活の可能性を構築する方途を探ります。

表象　文化と芸術の表象論的分析

文化と芸術の諸事象を表象論的観点から読解・分析します。技術、歴史、思想、実践への理解を主軸とし、創造と受容の場、諸々の文脈、メディアといった問題系へとアプローチします。

2025 年度より新カリキュラム実施

分　野	科　目　名	単位数
基礎講読科目	超領域講読演習	4
応用講読科目	公共講読演習	2
	生命講読演習	2
	共生講読演習	2
	表象講読演習	2
主題別科目	公共論	2
	生命論	2
	共生論	2
	表象論	2
	特殊講義	2
サポート科目	ディジタルデザイン	2
	アカデミックライティング	2
	リサーチマネジメント	2
プロジェクト科目	プロジェクト予備演習 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	2
	超領域実践プロジェクト	2
	情報生産プロジェクト演習 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（必修）	8
他大学院科目	単位互換履修科目	Ⅰ～4
大学院科目	大学院コーオプ演習	2

本研究科は次世代研究者の多様なあり方に答えるために、研究プロジェクトに取り組むスタンスと各ステップを中心とする「プロジェクト科目」に、これまでも必要不可欠であったプロジェクト予備演習を開講します。博士予備論文執筆後に査読論文や博士論文執筆に取り組む３回生以上の大学院生各自の研究を共有・議論する場の重要性を受け、これまでその機能の一部果たしてきたプロジェクト演習を『情報生産プロジェクト演習』としてさらに充実させます。早くから多様なプロジェクト研究を経験し、実行する機会や分野横断的ネットワークづくりの機会を増やすために、多くの研究プロジェクトが行われている研究センター・研究所などとの連携を図り、研究と教学を一体化した新科目『超領域実践プロジェクト』を開講します。

一貫制博士課程

前期課程相当

1回生　2回生

- 博士予備論文構想発表会発表
- 博士予備論文合格
- 30単位取得

2年以上在学した者が、所定の単位を修得し、修士論文の審査に合格した上で退学する場合に修士学位を授与することがあります。

後期課程相当

3回生　4回生　5回生　～

- 博士論文構想発表会合格
- 情報生産プロジェクト演習 8単位
- 論文（査読付学術雑誌）3編以上掲載

→ 博士論文提出 → 審査合格 → 博士号授与

3年次転入学※（修士号取得者）

※修士号取得者は入学時に24単位まで単位認定する場合があります。修士号取得以外の入学資格で入学した場合、1回生入学者と同様に本研究科で30単位以上単位修得する必要があります。

教員紹介

4つのテーマ領域で専任スタッフがディシプリンを超えて新しい研究領域を創出します

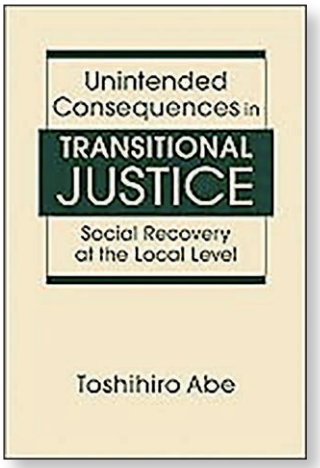
個人個人の日常的な生き方から、国家や共同体レベルの政策決定まで、さまざまな次元を視野に入れながら、わたしたちは、コア・エシックス（核心としての倫理）にふれる4つのテーマを選びました。そして、テーマごとに「科目としてのプロジェクト」が設置され、さらに各教員が中心になって運営する「個別プロジェクト」が設けられるのです。

阿部利洋＜公共＞

社会学・地域研究＜南アフリカ・カンボジア＞

グローバル規範の変容 —— 阿部利洋

グローバル化する現代世界は、さまざまな分野で標準化の動きが進むとともに、衝突、交渉、戦略的な共存が生起する過程として現れている。普遍をかかげる制度や価値観はさまざまに提示されるが、それらは異なる社会状況において（想定外のものを含め）多様な反応を惹起し、それぞれの文脈で変容していく。このような認識のもと、とりわけ新興・途上国地域の動向に着目し、紛争後の正義・人権や農産物をめぐる知的所有権等のトピックを手がかりに、異なる価値観が対置されるなかで集合的に創出されていく新たな秩序を考える。



立命館大学
研究者学術情報データベース

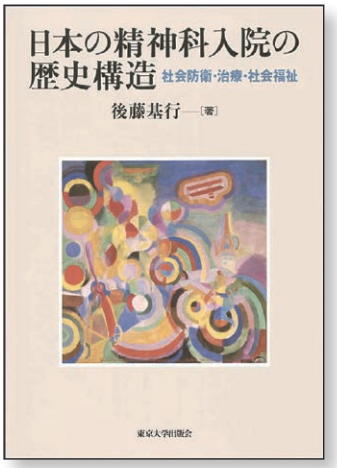
researchmap

後藤基行＜公共＞

歴史社会学・精神医療史

医療・歴史・アーカイブズ —— 後藤基行

現代社会において医療は、人間にとって不可避なシステムである。しかしながら医療は、純粋な医療の要請からのみならず、人々の生活上の要求、政治やあるいは社会的恐怖からも制度化されることがある。医療と福祉や救貧、社会防衛との接近である。医療の「公共性」を考えるためには、医療の先端的なイメージにとらわれるのではなく、医療のもつ歴史性を理解する必要がある。私は、歴史を深く知るためではなく、現代の問題の本質を把握するために歴史を知りたい。そのために医療者や行政、患者が作成した資料が必要だが、日本の医療アーカイブズは貧弱である。資料を残しながら研究する方法論を制度化していきたい。



立命館大学
研究者学術情報データベース

医療・ヘルスケア政策
データアーカイブ

松原洋子＜生命＞

科学史・科学技術論

生命と技術の倫理 —— 松原洋子

科学史・科学技術論を基礎に、松原が中心となって、生命科学・医療・福祉に関する科学的知識および科学技術をめぐる諸問題について広範な資料収集をおこない、適切な研究法を探求する。個体レベルでの生命の保持や能力の増進、次世代に関わる生殖や出生の管理、個体間での生体組織・機能や情報の交換、個と全体の関係が問われる人口・生態系・進化など、様々な位相に注目しながら、科学と技術の抱える問題を、整理・検討する。そして、こうした問題に接近するための生命論と、あるべき新しい倫理の構築をこころみる。

立命館大学
研究者学術情報データベース

優生科研
（基礎研究 S）

美馬達哉＜生命＞

医療社会学

医療・身体性・グローバリゼーション・思想 —— 美馬達哉

現代社会では、ゲノム編集などバイオテクノロジーの進展によって、「生命としての生」は操作可能なものとなりつつあります。一方、「生活としての生」は、障害や病、老いといった多様性に開かれながらも、グローバリゼーションのもとで画一化も進んでいます。

こうした「生」や「生命」をめぐる変容に対して、私は人文社会科学の視点から、ときに生命科学の知見も取り入れながら、総合的に考える研究に取り組んでいます。とりわけ「身体性」をキーワードに、医療社会学、生命倫理、リスク論などの観点から、医療・科学・生活が交差する現代社会の姿を問い直しています。

既存の常識を揺るがし、未来の社会を切り拓く知の力で、社会の新たな可能性を切り開いていきましょう。

立命館大学研究者学術情報データベース

戸谷洋志＜生命・共生＞

哲学・倫理学

責任概念をめぐる探求 —— 戸谷洋志

現代社会における責任概念のあり方を再検討していきます。科学技術を利用する人間の責任は、その影響力が増大することに伴って、ますます重視されつつあります。その一方で、人間の生命それ自体が、技術的な操作の対象になることで、人間の責任能力そのものが、科学技術からの影響を受けます。そうした連関のなかで、人間の責任をどのように捉え直すべきなのか、という問題を、現代思想を手がかりにしつつ、個別の社会課題を念頭に置きながら、検討していきます。それによって、責任概念を切り口としながら、他者との共生を促すために、社会課題を解決するための規範的指針を構想することを目指します。

立命館大学研究者学術情報データベース

阿部朋恒＜共生＞

文化人類学

フィールドスタディの拡張 —— 阿部朋恒

まだ見ぬ出会いを求め歩き、身をもって知り得たことを言葉にする。 文化人類学の核心には、常にこのようなきわめて単純かつ魅力的な営為があった。

そこで培われてきた方法から出発し、ここではフィールドに赴くことの意味と、そこから生まれる学びの可能性を幅広く探求する。私たちがコロナ禍のもとで過ごした時間、またその間に社会に実装された新たな情報技術や流通システムは、他者とのつながりをめぐる感覚と常識に変更を迫るだろう。現在進行形のこの変化を味方につけ、新たなフィールド学を構想していく。

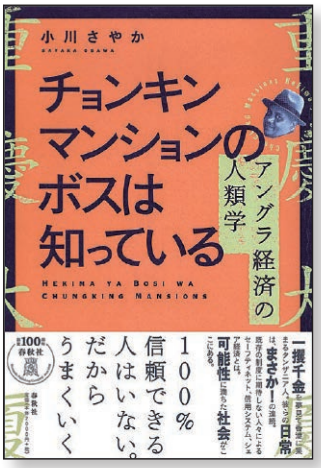
立命館大学研究者学術情報データベース

小川さやか＜共生＞

文化人類学・アフリカ地域研究

狡知、Living For Today、新しい経済文化の人類学的探求 —— 小川さやか

文化人類学を基礎に小川が中心となって、世界各地の同時代を生きる人々の日常的でミクロな営みから、他者と共によりよく生きるための仕組みや知恵、新しい人間観・世界観を探求する。とりわけ、アジア・アフリカ諸国のインフォーマル経済とそこで働く知恵（伶知）、多様な「その日暮らし」のあり方と、ブロックチェーンやシェアリング経済をめぐる思想とを重ね合わせ、新自由主義的な経済システムや未来優位の時間の観念、生産主義的で自立的な主体観に縛られた私たちの生のあり方を相対化し、ひとつではない多様な生のあり方を構想する。



第８回河合隼雄学芸賞受賞
第51回大宅壮一ノンフィクション賞受賞

立命館大学研究者学術情報データベース

酒井隆史＜共生＞

社会思想史、都市文化論

力とその両義性、資本主義、都市、集合的創造、歴史記述 —— 酒井隆史

二つの軸があります。ひとつは都市とその歴史記述、そしてその分析のための理論構築です。主体は民衆ですが、かれらを制約するさまざまな力と力の行使を支えるシステムが一つの解明すべき課題です。そして、もうひとつはそのような力の行使のただなかを、民衆がいかに生きるか、どのように考えるか、しばしばどのようにそれを覆すかが課題です。もうひとつは、思想史的研究です。これは、わたしたちのこの世界をいまだ規定する「資本主義」なるものを理解するために、人文社会科学によって提起されてきた知を追尾することが主軸のひとつになります。いずれにしても、これらは交わっています。そして、複数の関心をつらぬいているのは「自由」の追求です。

立命館大学
研究者学術情報データベース

竹中悠美＜表象＞

芸術学

社会におけるアートの作用機序 —— 竹中悠美

芸術学を基礎に置き、社会の中でアートに託された機能とそれを実践するための制度的・技術的システムを検討する。アートがパブリックな文化財として「消費」される現代の資本主義社会において、われわれとアートを取りもつ主たるシステムは美術館やアートセンターという場所と情報メディアである。そこで、展覧会、アートプロジェクト、文化政策が企図する文化活動の方法と課題、およびメディアにおけるその扱いを検証することによって、アートの意義を問い直す。

立命館大学研究者学術情報データベース

千葉雅也＜表象＞

哲学・表象文化論

哲学と批評のあいだで思考する —— 千葉雅也

表象文化の多様なケースを併せて考察するために、哲学を媒介として芸術・文化・社会・欲望の諸理論を交流させ、そして、領域横断的な論述の方法、および批評的なスタイルの修辞学を検討する。各人の問題意識に応じた「書く」方法を共に考えていきたい。

立命館大学研究者学術情報データベース

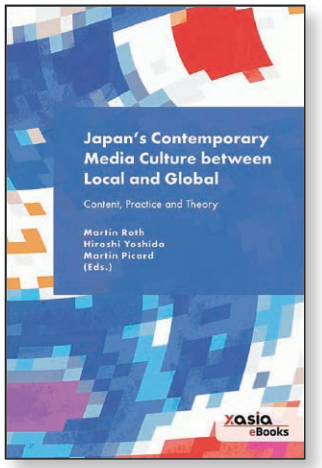
マーティン・ロート＜表象＞

ゲーム・デジタルカルチャー

ゲーム・デジタルメディアを探検する

—— マーティン・ロート

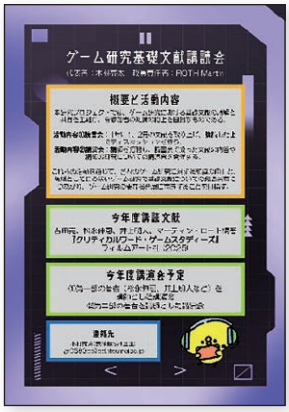
遊びとデジタル技術が組み合わされることにより生まれる表現空間・インタラクション空間の可能性と限界を検討する。日本のゲームを中心に、その空間においてどのような想像力・文化が発生し、あるいは現代社会の諸問題がどのように表出し、議論され、解決方法が探られているかを批判的に分析する。そのためには各空間に触れると同時に、これらの空間の社会的・経済的・技術的・制度的な背景を理解する必要がある。表象文化のみならず、現代社会は、デジタル技術により大きく変化しつつある。ゲーム・プラットフォーム・デジタルメディア空間はその変化を考えるための一つの伴となるはずだ。



立命館大学
研究者学術情報データベース

Martin Roth's playground

院生プロジェクトによる研究会



パートナーシップ委員会の取り組み

充実した研究支援体制

ライティング指導室（創思館 307）には、研究指導助手と英語論文指導スタッフが常駐しており、以下の業務を行っています。

●日本語論文の書き方および添削指導（研究指導助手・日本語論文指導スタッフ）。
●英語論文の書き方および添削指導（英語論文指導スタッフ）。
●先端総合学術研究科主催のシンポジウム・研究会の企画・運営に関わる業務。
●『Core Ethics』（研究科紀要）の編集、研究科彙報の編集、研究科 Web サイトの管理、院生プロジェクトの運営の支援など。
●日本学術振興会特別研究員等申請書作成のサポート。

また本研究科の博士論文の閲覧受付、図書・備品の貸し出し、『Core Ethics』・彙報の配布等も同室にて実施しています。

院生のための奨学金・研究活動助成制度

（1）先端総合学術研究科院生プロジェクト（活動は 8 ページのポスター参照のこと）

先端総合学術研究科では、院生の運営する研究プロジェクトに対して必要な研究資金の一部を交付し、外部資金を獲得して研究成果を出すトレーニングの場を設けています。

①共同研究の企画と追求を通じて、各院生の博士論文執筆に必要な研究力を向上させるとともに、研究者または社会人として多くの場面で求められるチームワーク力の向上、並びに予算管理スキル向上を促す。
②国内または国外の研究者または大学院生との協力関係（ワークショップ、講演など）を通じて、最先端の国内・国際的な研究動向を理解し、日本を超える枠組みでの協働・討論する能力を培う。
③共同研究の成果を発信できるための執筆・編集、媒体の適切な選択、公開に関わる能力の向上を促す。

（2）立命館大学での奨学金・研究助成制度（QR コードから参照してください）

一貫制博士課程 1．2 回生（博士課程前期課程相当）
一貫制博士課程 3 ～ 5 回生（博士課程後期課程相当）

（3）研究者としてのキャリアパス支援

①日本学術振興会特別研究員（DC1、DC2）【在校生での受給】

採用されることが一つのキャリアとなる日本学術振興会特別研究員【国の研究者養成制度。月額 20 万円の研究奨励金が支給されます。DC1（3 ～ 5 回生の 3 か年）DC2（4 ～ 5 回生の 2 か年）】に多くの先端研院生が採用されています。この特別研究員に採用された場合は本学の研究奨励奨学金 S も合わせて支給され、学費額相当分（年額 50 万円）を受給できます。それらを合わせると年額 290 万円もの支援を受けることができます。先端研はこの特別研究員に採用されている人数が本学の中で最も多いため、研究奨励奨学金 S 受給者も最も多くなっています。

先端研での新規採用者人数

2019 年度	4 名
2020 年度	3 名
2021 年度	4 名
2022 年度	5 名
2023 年度	4 名
2024 年度	1 名
2025 年度	3 名

② RARA 学生フェロー

RARA とは立命館大学先進研究アカデミーの略称です。大学の先導的・先進的研究拠点の形成に向けてリーダーシップを発揮することが期待される中核研究者の集まり（アカデミー）のことです。RARA を基盤にする研究者は、本大学の核となり他の研究者を巻き込み、先進研究の推進に取り組みます。

RARA は、本大学の先進研究を牽引する中核研究者である「RARA フェロー」、中核研究者へのステップアップに向け実績を積み重ねる「RARA アソシエイトフェロー」、次世代の研究者として活躍が期待される**「RARA 学生フェロー」**から主に構成されます。

下記のような手厚い研究支援を受けることができます。

【RARA × SPRING】
①研究活動支援金 月額 18.5 万円（年額 222 万円）（課税対象）
②研究費 年額 34 万円（上限）
【RARA × BOOST】
①研究活動支援金 月額 20 万円（年額 240 万円）（課税対象）
②研究費 年額 150 万円（上限）

先端研での新規採用者人数

2021 年度	2 名
2022 年度	1 名
2023 年度	3 名
2024 年度	1 名
2025 年度	6 名

RARA 学生フェローについて

最近の修了生の博士論文テーマ

■芸術としてのダンスにおける作品と上演の存在論的探求
■終末期の治療中止の意思決定：日本を事例として
■脳手術で脳性麻痺は「矯正」できたのか ―前世紀の被施術者たちの「語られなさ」の実相―
■暴力団離脱者の就労継続を可能にする〈場所性〉をめぐる社会学的研究
■自立生活センターの運営に関する研究 ―相談サービス事業に焦点をあてる―
■日本の自閉症施設とその周辺の歴史
■ハワイ日系移民における日本映画の受容と文化変容に関する研究（1904-1959）
■障害とセクシュアリティの交差（インターセクション）に関する社会学的研究 ―台湾身障同志の経験を中心に
■「小劇場演劇」の社会学 制度化の未発達の元でつくられる『芸術』
■「不在」者と共に暮らしをつくる地域コミュニティに関する社会学的研究 －丹波篠山市を事例に－
■昭和戦時期における戦争指導と戦争認識の諸相 －制限戦争と総力戦の狭間で－

修了生の活躍

①主な就職先

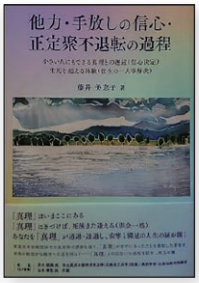
青森県立保健大学、跡見学園女子大学、（公財）尼崎市文化振興財団、稲盛財団学術部、医療創生大学、江副学園、大阪大谷大学、大阪公立大学、大阪大学、大阪電気通信大学、大谷大学、沖縄愛楽園交流会館、金沢大学、株式会社ゆう建築設計、中国・河北経貿大学、韓国・光州大学、韓国保健社会研究院、韓国ルーゲーリック病 (ALS) 協会、関西国際大学、関西大学、京都看護大学、京都光華大学、京都産業大学、熊本大学、芸術文化観光専門職大学、公益財団法人東京都歴史文化財団、アーツカウンシル東京、台湾・康寧大学、神戸学院大学、神戸教育短期大学、神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸大学、国立国会図書館、国立障害者リハビリテーションセンター、国立民族学博物館、滋賀医科大学、滋賀県立大学、四天王寺大学、特定非営利活動法人社会理論・動態研究所、聖泉大学、台湾・精能醫學、公益財団法人世界人権問題研究センター、専修大学、ZEN大学、大連工業大学、千葉県千葉リハビリテーションセンター、千葉商科大学、千葉大学、中部大学、津田塾大学、帝京大学、東京藝術大学大学美術館、東京女子医科大学、東京福祉大学、東京薬科大学、東京山手メディカルセンター、徳島大学、常葉大学、富山大学、長野大学、名古屋学院大学、名古屋市立大学、南山大学、日本学術振興会、日本国際学園大学、日本社会事業大学、日本大学、日本大学 短期大学部、日本福祉大学、沼津工業高等専門学校、中国・海南大学、羽衣国際大学、広島修道大学、福岡教育大学、文藻外国語大学、平安女学院大学、三重県立看護大学、宮城学院女子大学、桃山学院大学、山形大学、山梨大学、有限会社ケアサポートモモ、立教大学、立命館大学、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院、早稲田大学

②博士論文などをもとにした書籍の刊行

受賞作

川口有美子（2012 年度修了）第 41 回大宅壮一ノンフィクション賞、
　『逝かない身体：ALS 的日常を生きる』（2009 年、医学書院）
川端美季（2011 年度修了）第 2 回法政大学出版局学術図書刊行助成、
　『近代日本の公衆浴場運動』（2016 年、法政大学出版局）
山本由美子（2012 年度修了）第 1 回生存学奨励賞審査員特別賞、
　『死産児になる：フランスから読み解く「死にゆく胎児」と生命倫理』
　（2015 年、生活書院）
由井秀樹（2013 年度修了）2015 年度 日本科学史学会学術奨励賞、
　『人工授精の近代：戦後の「家族」と医療・技術』（2015 年、青弓社）
矢野亮（2014 年度修了）第 2 回生存学奨励賞、
　『しかし、誰が、どのように、分配してきたのか：同和政策・地域有力者・都市大阪』
　（2016 年、洛北出版）
萩原由加里（2009 年度修了）日本アニメーション学会奨励賞 2016、第 13 回木村重信民族藝術学会賞、
　『政岡憲三とその時代：「日本アニメーションの父」の戦前と戦後』（2015 年、青弓社）
小西真理子（2013 年度修了）第 4 回生存学奨励賞、
　『共依存の倫理：必要とされることを渇望する人びと』（2017 年、晃洋書房）

2025 年以降に刊行された書籍の一部



③研究者としてのキャリア

立命館大学衣笠総合研究機構
専門研究員採択者数（修了生）＜新規＞
　2021 年度　1 名
　2022 年度　2 名
　2023 年度　3 名
　2024 年度　1 名
　2025 年度　2 名
　2026 年度　3 名

RITSUMEIKAN

立命館大学衣笠独立研究科事務室

TEL: 075-465-8348　FAX: 075-465-8364

E-Mail: doku-ken@st.ritsumei.ac.jp

先端総合学術研究科についての詳細は

立命館　先端　検索

2026.5.30.200